

(様式1)

## 令和3年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立八広小学校
校長名	須藤 太郎

### 1 本校の学力に関する状況

#### (1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"><li>・教科ごとで見ると学校全体の国語科では、2～5年生は全国平均を上回った。算数科も、2、4、5年生は全国平均を上回った。社会科も4、5年生は全国平均を上回った。</li><li>・着実に話を聞くことができ、自己肯定感の高い児童が多い。日頃の授業が充実しつつあると考えられる。</li><li>・特に国語科は「話すこと」「聞くこと」「書くこと」を中心に伸びている。第5学年は「基礎」「活用」が共に高く、第6学年では「活用」が高い。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・学年による学力の差に開きが見られる。また、二極化が疑われる教科・学年が見られる。</li><li>・理科は4～6年生とも全国平均を大きく下回っており課題となっている。</li><li>・算数科は第2学年の「基礎」が高く、全学年を通じて着実に学力が定着しているものの、学年によるバラツキが見られ、特に高学年に進むに連れ課題が見られる。</li><li>・学びに向かう力や、さらに思考力・判断力・表現力を高める指導の工夫が必要である。</li></ul>

#### (2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"><li>・全校的に先生や家族や友達のささえを受け、規範意識があると感じる児童が多い。</li><li>・「学級の規範意識・絆」「家族・友達・先生のささえ」「いじめのサイン」「成功体験と自信」が強みである。</li><li>・「いつもコツコツ勉強している」との自己評価が高学年で54～74%と高い水準にある。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・第2学年は「学級の絆」「いじめのサイン」「学習習慣」「学習意欲」が課題である。第3学年は「学級の規範意識」「学習習慣」が課題である。第6学年は「充実感と向上心」「学習習慣」「学習意欲」が課題である。</li><li>・東京未来大学との共同研究で培った学習意欲を高める授業をさらに進める必要がある。</li></ul>

#### (3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"><li>・東京未来大学との共同研究で進めてきた意欲的な学習態度が定着しつつある。</li><li>・振り返りシートを活用し基礎学力の充実が図られてきつつある。</li><li>・タブレット端末を授業でよく活用し、情報活用能力の高まりが見られる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・家庭学習力の充実が不可欠であるが、意識調査ではなお低い数値となっている。</li><li>・読書の量がやや少ない。</li><li>・テレビ、ネットゲーム、SNSの視聴時間が長く家庭との連携が必要である。</li></ul>

### 2 本年度の学力向上に関する主な取組

#### (1) 日常の指導の充実のための取組

①授業展開の改善点を全校体制で検討し、指導に当たる。

ア、校内研究を今まで以上に充実させ、一つ下の学年に学力調査の課題を伝え、研究成果が日頃の授業実践に生きる「研究の日常化」を実現させる。

イ、低・中学年には少人数指導や個別指導を通して個に応じた指導の充実を図り、振り返りシートを活用し基礎学力の充実を目指す。

②学習形態の多様化を図る。

ア、特に理科学習において、問題解決学習や体験学習を多く取り入れ、児童が自ら課題を設定し、課題解決を通して自ら考え判断できる能力の育成に努める。

イ、各教科の学習において、学習の成果を発表する機会を設定し、グループ学習や対話型学習の楽しさとやりがいを感じさせながら学習を進めさせていく。

ウ、全教科を通して「書くこと」に重点を置き、自分の考えや感想を文章に表すなど、ノートやワークシートの記入の仕方を継続的に指導する。

③全校体制で読書指導の充実を図る。

ア、学校図書館を整備し、週3日勤務の司書を活用し、読書指導を推進する。

イ、朝学習での読書活動の定着を図る。

## (2) 自主的な学習の推進のための取組

①学習の習慣化を図る。

ア、朝学習の時間を確保、活用し、基礎的基本的な事項の意図的・計画的な指導の徹底を図る。

イ、自ら計画し実行できるよう「漢字の読み書き」や「計算」だけでない家庭学習に対する指導の徹底を図り、アウトプットさせ、その習慣化を図る。

ウ、放課後補習教室・土曜授業のさらなる充実を図る。

②タブレット端末を活用し、家庭学習の強化を図る。

ア、タブレット端末を活用し、「振り返りシート」「ミライシード」などのドリル系の家庭学習を推進する。

イ、ソフトウェア「ロイロノート」を活用し、家庭での自主的な学習を推奨し、教員に提出させ、適切に評価して児童の学習意欲の向上を図る。

## (3) ICT機器の活用を推進する取組

① 興味・関心をもたせる授業を展開する。

ア、タブレット端末やプロジェクターを活用し、分かりやすく、児童の興味・関心を惹く授業を構築する。

② 思考・判断・表現力の伸長を図る。

ア、タブレット端末で、「プログラミング学習」を展開し、思考・判断・表現力を伸ばす。

### 3 「令和4年度 墨田区学習状況調査」における目標

#### (1) 目標

・本校のすべての学年で国語科・社会科・算数科・理科ともに平均正答率を全国平均以上にする。